

会議議事録

第3回義務教育学校整備検討委員会

日付	令和6年10月25日（金）
時刻	18時00分～20時30分
場所	厚沢部町図書館 視聴覚室

出席者等（敬称略）

委員長 香川 直樹（厚沢部中学校学校運営協議会長）

副委員長 近藤 良信（社会教育委員長、民生児童委員）

委員

西山 訓央（保護者代表）

中野 健二（北海道建設技術センター職員）

木村 千津（保健福祉課長）

中井 文夫（文化協会会長、子育て支援アドバイザー）

川口 豊（鶉小学校学校運営協議会会長）

久慈 学（厚沢部小学校長）

玉置 英樹（町校長会長、町教研会長）

宮嶋 謙次（こども園保護者代表）

八重樫明美（鶉小学校保護者代表）

太田 滋子（社会教育委員副委員長、人権擁護委員）

橋端 純恵（保健福祉課主幹）

事務局

高野 政人（教育長）

二宮 和之（事務局長）

太田 聡子（教育委員会事務局主幹）

石井 淳平（教育委員会事務局主幹）

加藤 一義（指導主事）

山田 蒼良（学校教育係）

委員欠席者（敬称略）

木口 孝志（政策推進課主幹）

安田 光（総務財政課長）

尾山 浩崇（厚沢部小学校学校運営協議会会長）

山田 克哉（館小学校学校運営協議会会長）

高田 一弥（厚沢部商工会会長）

支援業務委託先

平井聡一郎（未来教育デザイン）

議事内容

1. 開会

事務局長より本日のスケジュールについて説明があり、委員会が開会されました。

2. 議題 1: 義務教育学校整備に関する基本方針・教育課程・カリキュラムについて

指導主事の加藤一義氏より、義務教育学校の設置に関する基本方針、施設整備の基本方針・カリキュラムについて説明がありました。これらの説明内容は、これまでの第1回、第2回義務教育学校整備検討委員会の会議内容の意見をまとめたものであり、原案として今後、審議が必要であることが確認されました。

(1)基本方針について

- ア 施設一体型の校舎設計:小中学校を統合し、移動の効率化を図る。また、バリアフリー対応や高齢者向けの設備の整備も必要。
- イ ICT 設備: 校内全域に高速インターネットを整備し、授業でタブレットやPCを活用できる環境を整える。電子黒板や充電設備の導入も提案されました。
- ウ 防災設備: 災害時に避難所としての活用を想定し、避難経路や備蓄品の準備を行う。
- エ 多目的スペースの設置: 地域住民や保護者との交流が可能な空間の整備が提案されました。
- オ その他: 環境に配慮した省エネ対策、通学環境の安全確保なども議論されました。

(2)カリキュラムについて

- ア 基礎学力の充実: 1年生から4年生の段階で国語や算数の基礎力を強化する。
- イ 教科横断型の学習: 5年生から中学1年生までは教科横断型の学習を実施し、探究心を育む教育を推進する。
- ウ 多文化理解・グローバル教育: 中学2年生からは選択性学習の導入や多文化理解を進めるカリキュラムが提案されました。

2. 議題 2: 平井聡一郎氏の講話について

未来教育デザインの平井聡一郎氏より、今日的な教育課題と目指すべき教育についての講話がありました。講話の内容は以下の通りです。

(1)AI の台頭による仕事の変化

- ア 単純作業や繰り返しの仕事はAI やロボットに置き換わる。
- イ 残る仕事は、自分で考え、意思決定し行動するような仕事にシフトする。

(2)自発的な学びの重要性

- ア これからは「やらされる勉強」ではなく、子どもたちが自分から求めて学ぶ姿勢が必要。
- イ 「勉強」という言葉自体が「強いる」という意味を持ち、子どもたちには不適切。

(3)ICT 活用の推進

- ア 教育現場における ICT の活用が重要であり、単なる従来型の授業に ICT を取り入れるだけでは不十分。
- イ 子どもたちが活発に発言し、学びを共有する場を ICT で支援することが求められる。

(4)労働生産性とスキル向上

- ア 日本は OECD で労働生産性が低い国の一つであり、これからの世代は自分で稼ぐ力を身に付けることが重要。
- イ 個々のスキルを高め、変化に対応できる能力が必要とされる。

(5)長寿化と働き方の多様化

- ア 「人生 100 年時代」において、60 年同じ仕事を続けることは難しいため、多様な仕事にチャレンジできる力を養う必要がある。
- イ 自信を持って自己肯定できるような教育が必要。

(6)フレキシブルな学びの環境

ア 縦の学び（先生からの知識の伝達）に加え、横の学び（子ども同士の対話）を重視するべき。

イ 学校の環境も、さまざまな学び方に対応できる柔軟なものにしていくべき。

(7)AI の役割と未来の教育

ア これからは子どもたちが一人でも学べるような環境が整備され、教師はAI と共に教育に取り組むようになる。

3. グループディスカッション

3つのグループに分かれ、ワールドカフェ方式で話し合いが行われました。各グループでは、教職員や保護者への理解促進の必要性、学童保育の在り方についての検討、英語教育の推進等の必要性について意見交流が行われました。

4. 質疑応答

質疑応答では、宮嶋委員より、施設整備に関する意見と今後の進行スケジュールについての質問がありました。それに対し、事務局は「決定ではなく、今後議論を深めるための材料として整理したもの」と説明しました。

5. 閉会

最後に、委員長より、今後の活動への期待と協力のお願いが述べられ、閉会となりました。

次回の会議 令和6年11月13日（水）